

<p><b>会津藩の人口政策</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 1</span> 松枝 茂著 A5 判 165 頁／本体 1,000 円(税別) / 1966. 3. 1</p>	<p>わが国では古くから墮胎間引という悪習によって人口の制限が行われていた。本書は、会津地方でいかに広く墮胎間引が行われていたか、寛永 20 年に保科(松平)正之が入封し間引の不慈なる旨を論じて以後、歴代藩主がいかに矯正改善を行っていったかを論じたものである。</p>
<p><b>上代国語法研究</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 3</span> 佐伯 梅友著 A5 判 174 頁／本体 1,000 円(税別) / 1966. 12. 10</p>	<p>本書は、佐伯梅友教授の学位請求論文『上代国語法研究一文構成をめぐる』に、その後の研究成果『詞林逍遙』を加えたものである。</p>
<p><b>子思研究</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 5</span> 下斗米 晟著 A5 判 194 頁／本体 2,000 円(税別) / 1968. 7. 30</p>	<p>近年の郭店楚簡の発見によって、儒教思想史上におけるその重要性が実証的に確認されつつある孔子の孫・孔伋、字は子思について、『中庸』との関係、「天」・「性」・「誠」などを中心としたその思想の実像、さらには陽明学への影響など多面的に論じた子思研究の基本的文献。なお『中庸』本文に訓詁、語釈を施した『中庸解義』を付録として載せる。</p>
<p><b>近世社会経済史料集成</b> 高橋 梵仙編 A5 判</p> <p><b>第一巻 飢饉考(上) 《品切》</b> 231 頁／本体 5,000 円(税別) / 1969. 1. 30</p> <p><b>第二巻 飢饉考(下) 《品切》</b> 485 頁／本体 5,000 円(税別) / 1969. 1. 30</p> <p><b>第三巻 百姓一揆 其他</b> 490 頁／本体 4,500 円(税別) / 1980. 3. 25</p> <p><b>第四巻 飢渴もの(上)</b> 416 頁／本体 4,500 円(税別) / 1977. 2. 28</p> <p><b>第五巻 飢渴もの(下)</b> 855 頁／本体 5,500 円(税別) / 1977. 2. 28</p>	<p>本史料集成は、未だかつて世に出たことのない自筆の稿本・写本・板本を主軸にすえて採録したものである。</p> <p>第一巻・第二巻には、横川直胤編纂の「飢饉考」(全 9 巻)を上・下として収めた。内容は、盛岡藩領内に起った飢饉についての 200 年間に至る編年記録である。</p> <p>第三巻には、仙台藩の「奥州東山大原村 御百姓一揆之事」をはじめ、東北各地の百姓一揆を中心とする史料 17 件を収録した。</p> <p>第四巻・第五巻には、東北地方に残された飢饉の記録を「飢渴もの」上(19 件)・下(30 件)として収録した。</p>
<p><b>わが日本文化育成への諸相の研究</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襟刊 7</span> 横山 七郎著 A5 判 126 頁／本体 300 円(税別) / 1970. 1. 30</p>	<p>本書は、著者の旧稿「言霊の幸福国」「かな文字の発明と日本文化」「上代帰化人考」「礼」の徳について」を 1 冊にまとめたものである。</p>
<p><b>孟子伝</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襟刊 5</span> 猪口 篤志著 A5 判 120 頁／本体 800 円(税別) / 1970. 2. 28</p>	<p>孟子の人生と思想の展開を、その生誕、幼年期、少年期、青年期、壮年期、および遊歴時代、退居時代、終焉までにわたって詳述するとともに、当時の政治、社会、および他の諸子百家の活動とも有機的に関連づけながら活写する。格好の入門書であるのみならず、大学院生ならびに専門家にとっても孟子個人とその思想に関する理解を深化させるうえで示唆に富んだ有益な一冊。</p>
<p><b>漢語否定詞の研究</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襟刊 4</span> 野口 正之著 A5 判 65 頁／本体 500 円(税別) / 1970. 3. 31</p>	<p>中国語の否定詞についての研究。常用否定詞の不、没、およびその他否定詞、非、弗、匪、無、毋、勿、莫、休、亡、未、否、別などの否定詞について、例文を挙げて文法上から研究したものである。このほかに二重否定、全否定、一部否定など否定文についても研究されている。</p>
<p><b>中國經學史綱</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襟刊 9</span> 影山 誠一著 A5 判 134 頁／本体 1,500 円(税別) / 1970. 10. 1</p>	<p>喪服研究で知られる著者が、「経学」、すなわち「儒教経典である経書の訓詁や義理を探究する学問」の歴史的展開を時代を追って簡明に解説した好著。個々の経書、経学関係の著作、経学者、さらには今文学・古文学・讖緯思想以下、清朝考証学の二大潮流である呉派・皖派にいたるまでの重要事項をも明快に解説している。</p>
<p><b>イギリス・アメリカおよび日本の手形交換制度の特質の比較研究</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 8</span> 佐藤 良輔著 A5 判 208 頁／本体 2,000 円(税別) / 1970. 11. 5</p>	<p>本書は著者の学位論文に修正と補足を加えたもので、日・英・米における手形交換制度の歴史的発展過程と、その背景について究明している。</p>
<p><b>日本國現報善惡靈異記註釋</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 9</span> 松浦 貞俊著 A5 判 526 頁／本体 4,000 円(税別) / 1973. 6. 24</p>	<p>松浦貞俊教授の『日本靈異記』の研究成果は昭和 19 年 8 月に『続日本古典読本』の一冊として日本評論社から刊行されているが、戦時下ということもあって説話数全 116 話中、約半分の 62 話、注解・附言は 3 分の 1 弱に縮小されている。本書は当該書の草稿であり、その全貌を省略なしに刊行したもので、日本評論社版とは異なる考察などをも含む貴重な遺稿本である。</p>

<p><b>ギュンター・アイヒ放送劇集</b>          宇井 英俊訳          314 頁／本体 2,500 円(税別) / 1974. 4. 10</p>	<p>ラジオの発達とともに舞台劇から、放送劇の芸術性を高めるため制作されたギュンター・アイヒの「もうひとりの私と私」「大がらすザベート」「夢」の台本を翻訳したもの。訳者による作品解説と「モノログ、ナレーションと放送劇」を加えた。</p>
<p><b>中国の食糧問題</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 12</span>          土井 章著          A5 判 142 頁／本体 3,000 円(税別) / 1975. 2. 1</p>	<p>中国建国後の食糧問題について、その基礎条件、食糧増産、農業食糧政策、さらに食糧の需給と国際的な関連について広範囲に研究したものである。なお、巻末には農業政策増産に関する資料を収録する。</p>
<p><b>現代中国の革命と建設</b>          江頭 数馬著          A5 判 292 頁／本体 3,500 円(税別) / 1975. 9. 20</p>	<p>著者は中国北京での現地報道と中国社会主義革命の研究について、長年にわたって取り組んできた。本書はその経験に基づいて、中国の革命と建設についての解明と理解のために上梓されたものであり、中国社会主義の形成過程、プロレタリア文化大革命の経緯、さらにマクロ的視点から中国社会主義経済形成について論じている。なお、巻末では 1970 年代中国の大学改革についての状況が説明されている。</p>
<p><b>日本人口統計史論集 (上)</b>          高橋 梵仙編著          A5 判 146 頁／本体 4,500 円(税別) / 1975. 9. 30</p>	<p>本書には、安政 5 年刊の伊能穎則『古今戸口考』をはじめ、明治期における木村正辞、黒川真頼、村田豊、パウル・マイエット、中村不能斎、鈴木寿太郎、小宮山綏介など 8 氏の人口統計論を採録し、解説を付した。</p>
<p><b>日本人口統計史論集 (下)</b>          高橋 梵仙編著          A5 判 271 頁／本体 5,500 円(税別) / 1976. 2. 28</p>	<p>本書には、ガーレット・ドロップス『江戸時代に於ける日本の人口』(高橋梵仙訳)をはじめ、柳沢保恵、萩野由之、井上瑞枝 4 氏の著書・論文を採録し、解説を付した。</p>
<p><b>続仏教歌謡集成</b>          武石 彰夫編著          A5 判 730 頁／本体 22,000 円(税別) / 1977. 3. 1</p>	<p>本書は、仏教歌謡古註類、声明関係資料の原文資料集である。次の 12 書が集録されている。①法則集(広沢弘融)、②西大寺勤行法則、③南山進流密宗声明系譜、④弾偽褒真抄、⑤天台大師和讃註、⑥天台大師和讃法語、⑦天台大師和讃開書、⑧浄業和讃、⑨別願之註、⑩弥陀如来和讃集註、⑪台密修験道勤行要文集、⑫順礼歌要解。上記のうち①②⑧⑩の 4 書は写真版、他は翻刻による集録である。</p>
<p><b>中国の対外貿易序論</b>          富山 栄吉著          A5 判 161 頁／本体 3,500 円(税別) / 1977. 3. 1</p>	<p>中国の対外貿易について実証的に研究、分析を行っている。中国対外貿易の推移、1970 年代の貿易と石油戦略、走資派批判からの影響、日中貿易の推移、さらに日本の対中貿易政策、中国の対外貿易管理制度の研究から成る。</p>
<p><b>明治前期公債政策史研究</b>          藤村 通著          A5 判 219 頁／本体 3,500 円(税別) / 1977. 3. 25</p>	<p>本書は、明治前期の公債について本格的に取り組んだ研究書であり、国家財政が公債によってどのように補完されたか、また公債をめぐって国家財政の問題は何であったかを追求した。</p>
<p><b>中国経済開発論</b>          土井 章著          A5 判 294 頁／本体 3,500 円(税別) / 1977. 5. 1</p>	<p>中国のマクロ経済開発方式としての二本足政策の分析を行い、商品交換、蓄積と開発方式の関連、変革による開発と投入による開発の二つの開発手段などについて論じ、最後に、政治手段による社会的合理性追求の面と経済手段による経済的合理性追及の面との統一が如何にして進められるのかを論じたものである。</p>
<p><b>仏教文学の周辺</b>          武石 彰夫著          A5 判 312 頁／本体 10,000 円(税別) / 1977. 9. 25</p>	<p>本書は、著者が折にふれて発表した中世仏教文学研究論文の集成であり、第一編 方丈記と徒然草、第二編 中世歌謡、附編「方丈記」注解、の三編より成る。第一編においては、標記の二書中に登場する人物についての考証がなされる。第二編では、親鸞聖人の和讃や時衆の和讃について考察がなされている。附編においては、「方丈記」の原文を掲げ、大意、通釈を記し、詳細な訳釈を加えている。</p>
<p><b>中國古代樂論の研究</b>          栗原 圭介著          A5 判 624 頁／本体 9,000 円(税別) / 1978. 3. 31</p>	<p>本書は、中国古代における楽をめぐる理論と議論、すなわち「楽論」の歴史的展開を種々の文献史料にもとづいて実証的に解明した研究書である。また、その成果を敷衍して、第一に、中国古代の「楽」の基本的かつ独自の性格が「神秘性と合理性の共存」にあること、第二に、そのような特色が、自然界に対する普遍的無意識とでも謂うべき思惟に由来すること、の二点を指摘する。</p>
<p><b>中国の対外経済交流の展開</b>          明野 義夫著          A5 判 264 頁／本体 3,500 円(税別) / 1978. 3. 31</p>	<p>建国後の中国経済成長の推移と、中国の対外経済交流についての研究である。とくに対外貿易の基本原則、対外貿易の政策的変遷、対外貿易概況、中ソ貿易、米中貿易、中国香港貿易の変遷、対外経済協力などについて詳細に論じられている。</p>

## 現代中国革命重要資料集

土井 章監修 A5判

## 第一巻 八党大路線と四つの現代化

1415頁／本体15,000円(税別)／1980.3.31

## 第二巻 主観的能動性と客観的合理性の交錯

1268頁／本体15,000円(税別)／1981.3.31

## 第三巻 文化大革命とその批判 《品切》

1677頁／本体21,000円(税別)／1984.3.31

建国後の中国革命史について、テーマ別に重要資料を編纂したものの。

**第一巻**は、中国の経済建設への転機となった1956年の「八党大」(中共第8期全国人民代表大会)における経済志向と文化大革命後の「四つの現代化」志向を対比し、この二つに関連する諸資料を選択収録したものである。さらにその間の、党規及び憲法も収録する。

**第二巻**は、1950年代末の大躍進、人民公社、社会主義総路線の「三面紅旗」の展開から1960年代半ばまでの文化大革命について、「主観的能動性の展開と客観的合理性の追求」の二側面の対立と交錯という視点から、この間の資料を収集、収録する。まず、主観的能動性の展開として、毛沢東の矛盾論とその政策展開について論じ、さらに客観的合理性の追求として、社会主義経済法則と価値法則を論じ、それらの資料を示す。

**第三巻**は、プロレタリア文化大革命を、中国の歴史的段階における二つの異なった認識に基づく二つの路線闘争と捉え、それに関する数多くの資料の中から、基本的な文献を収録する。第1編では中国共産党史における文革の位置、第2編文革展開期、第3編奪権期、第4編最盛期、第5編経済志向の台頭および林陳反党集団、第6編文革の動揺、およびその終了宣言について、第7編は文革残存派の後退、新躍進の否定、国民経済の調整など第11期3中全会前後の資料を収集する。

## E C通貨統合の回顧と展望

河合 俊三著

A5判 207頁／本体4,000円(税別)／1981.2.20

本書は、永く外務省の世界経済部門の調査研究に従事し、OECD日本政府代表部に駐在した著者が、1960年代のEC通貨統合の萌芽期からEMSの設立について参考資料を付け、さらに80年代以降について複数通貨制度時代における日本のドル一辺倒の通貨外交ではなく、円の国際通貨としての役割を説いたものである。

## 真福寺本 文鳳鈔

川口 久雄解説

B5判 1016頁／本体20,000円(税別)／1981.3.30

内容を事項によって分類・編集した書物を類書と呼ぶ。唐の歐陽詢らが勅を奉じて撰じた中国類書中の白眉、『藝文類聚』100巻は最も著名な類書である。『文鳳鈔』10巻は、菅原為長の撰によるわが国の類書であるが、写本によってのみ伝えられてきた。本書は、最古の写本である真福寺本を底本とし、欠本である巻4と巻7とを宮内庁書陵部蔵鷹司本と、中田祝夫氏月ヶ瀬文庫本とによって補充し、影印して出版したものである。巻末に編者の解説を付す。

## 敦煌資料と日本文学 全四巻

川口 久雄編 B4判

## (一) 敦煌本 破魔變・四獣因縁 《品切》

23頁／本体3,500円(税別)／1983.8.30

## (二) 敦煌本 敦煌壁画繪解き銘文集 《品切》

57頁／本体6,300円(税別)／1983.8.30

## (三) 敦煌本 大目乾連冥間救母變文

56頁／本体6,600円(税別)／1984.3.30

## (四) 敦煌本 于闐國和尚 阿弥陀經講經文

28頁／本体4,400円(税別)／1984.3.30

川口久雄教授編の「敦煌資料と日本文学」シリーズ。

(一) はパリ国立図書館所蔵の『破魔變』と『四獣因縁』の影印と解説である。

(二) は北京国立図書館所蔵の敦煌出土色紙絵詞銘文集の影印と釈文である。とりわけ、敦煌壁画繪解き銘文集の「王子と飢えた母虎」の解説は詳細を極める。

(三) はロンドン大英博物館所蔵のスタイン本「大目乾連冥間救母變文」「敦煌各寺院僧尼名書留」およびパリ国立図書館所蔵のペリオ本「大目乾連冥間救母變文」の影印と、川口久雄教授の論文「日蓮救母變文考」を収録する。

(四) は敦煌莫高窟第112窟、鄧健吾教授撮影による南壁東側(中唐)の「西方阿弥陀浄土变相(全図)」と「舞女天反弹琵琶舞蹈図(部分)」と「敦煌第17窟の西方浄土变相(初唐)」一鋪等の影印および解説と、川口久雄教授の論文「敦煌出土阿弥陀經講經文と我が國浄土文学」を収録する。

## 幕末明治 海外体験詩集

—海舟・敬宇より鷗外・漱石にいたる—

川口 久雄編

B5判 1019頁／本体32,000円(税別)／1984.3.1

幕末の勝海舟や中村敬宇から、明治の森鷗外や夏目漱石にいたるエリートたち62名が海外渡航して創作した漢詩845首の海外体験の詩集。

## 《古今小説》語彙索引 上・下

大東文化大学東洋研究所・中国近世語研究班編

A5判 530・576頁／本体5,000円(税別)／1984.3.10

本書は『古今小説』の語彙索引である。『古今小説』は明代通俗小説の叢書であり、明代後期に馮夢龍が所蔵していた話本を底本として、それらに収められた古今小説に筆削を加えたものであるといわれている。近世白話、殊に明代白話の研究には最適の書である『古今小説』の基礎作業を為したのが本書である。

<p><b>バンドン会議と五十年代のアジア</b> 岡倉古志郎編著 A5判 350頁／本体4,000円(税別)／1986.3.25</p>	<p>本書は、共同研究「第二次世界大戦後バンドン会議前後のアジア新興独立諸国の基本的な外交路線の諸特徴の総合的研究」と「非同盟運動前史研究」の研究成果をまとめたもので、第1部概説、第2部50年代アジア諸国の外交路線、第3部バンドン会議と非同盟、第4部年表・史料を10人の執筆者が担当した。</p>
<p><b>音頭口説集成 1～4巻</b> 成田 守編 A5判 平均530頁／各巻 本体7,000円(税別)／1996.3～1998.9</p>	<p>音頭あるいは口説と称して、長編の歌謡物語群が盆踊りの中で歌われているのは、名古屋以西が主である。失われつつある音頭口説を全国にわたって蒐集する。なお、第1巻に音頭口説概説・音頭口説分布出典目録を掲載。</p>
<p><b>年代学(天文・暦・陰陽道)の研究</b> 大谷 光男他 A5判 456頁／本体14,000円(税別)／1996.3.25</p>	<p>古暦に関する共同研究の成果として刊行された「年代学」研究論文集。序＝遠藤光正、論文執筆＝大谷光男・湯浅吉美・山下克明・小坂眞二・鈴木一馨。</p>
<p><b>琉球官話課本</b> 《百姓官話》《学官話》《官話問答便語》語彙索引 瀬戸口 律子・佐藤 晴彦編著 B5判 159頁／本体8,000円(税別)／1997.3.25</p>	<p>「琉球官話課本」とは琉球の人たちが官話(中国語)を学ぶために使用したテキストのことである。天理図書館所蔵の「百姓官話・学官話・官話問答便語」の三種を影印し、解説・索引を付した。</p>
<p><b>宣明暦注定付之夏の研究</b> 遠藤 光正他 B5判 126頁／本体12,000円(税別)／1997.3.25</p>	<p>国立天文台蔵賀茂存富自筆写本は、宣明暦法の後段、日食・月食部分である。前段は失われているが暦作者の参考書で賀茂家の秘書として一子相伝してきた。朱墨二色刷りで影印し、書き下ろし文・研究解題を加えた。暦法研究の貴重書。</p>
<p><b>「高麗史」暦志 宣明暦の研究</b> 遠藤 光正他 B5判 134頁／本体8,000円(税別)／1998.3.25</p>	<p>宣明暦は唐代に完成し高麗・日本に伝えられた。日本では貞観から貞享年間823年間使用されたので、暦法研究上無視することのできない暦法である。本書では韓国蔵本を底本に影印し、書き下ろし文・研究解題を付した。</p>
<p><b>東アジアの古代史を探る</b> —暦と印章をめぐって— 大谷 光男著 A5判 548頁／本体18,000円(税別)／1999.2.15</p>	<p>第一部 暦・元号(高麗朝および『高麗史』の暦日についてほか暦学関係の論文を収録)、第二部 中国の冊封[官印](古代中国から冊封された官印についてほか古印に関する論文を収録)、第三部 日本古代史(三善清行の「革命勘文」についてほか日本古代史関係の論文を収録)。</p>
<p><b>明治維新时期 日田掛屋商人資本の研究</b> 兵頭 徹著 A5判 298頁／本体9,000円(税別)／1999.9.30</p>	<p>本書は、明治維新时期における行政形態の推移、政治的背景の変化等の諸問題について考察をするとともに、維新混乱期における特権的商人資本としての日田の掛屋商人資本の本質的危機に陥る経緯について分析を進め、幕末維新时期における特権的商人資本の動向を明らかにしたものである。</p>
<p><b>「高麗史」暦志の研究</b> 付、宣明暦関係用語・事項解説 神田 泰主編著 B5判 67頁／本体6,000円(税別)／2000.3.25</p>	<p>『高麗史』巻五十・志第四「暦」の原文に見える専門用語に関する解説、および理解に有益な種々の表を脚注の形で付した。宣明暦自体の理解に資するとともに、中国・日本に存する宣明暦関係史料と比較することによって、東アジア三国における当該暦に関する種々の比較研究にも有益な一書。『「高麗史」暦志 宣明暦の研究』(本研究刊)の姉妹編に相当する。</p>
<p><b>朝野僉載の本文研究 一付・『耳目記』考</b> 福田 俊昭著 B5判 329頁／本体15,000円(税別)／2001.3.20</p>	<p>『朝野僉載』は唐代、則天武后のころ張鷟が、朝廷と民間とで見聞した事柄を書き留めた随筆集。唐書・旧唐書の列伝に現れてこない人物の伝記やエピソードの中に、当時の風俗習慣が記載されている貴重な資料である。①普秘笈本『朝野僉載』②類説本『朝野僉載』③張鷟の伝記 付『耳目記』考</p>
<p><b>東アジアの天文・暦学に関する多角的研究</b> 小林 春樹編 A5判 292頁／本体11,000円(税別)／2001.3.25</p>	<p>『黄帝金匱経』について(小坂眞二)・『大唐陰陽書』の考察—日本の伝本を中心として(山下克明)・我が国天文・測量史上におけるオクタント・セキメント(中村士)・時憲書の暦注について[琉球]—大清乾隆二十七年選日通書[国立国会図書館蔵](大谷光男)・中国古代における易と暦法の牽連関係—卦気鋭の構造と原理を中心として(濱久雄)・天官書の構想と形而上学的考察(栗原圭介)・中国古代における正統論の根拠とその意義について—「歴史書」と暦学・暦法等を中心として(小林春樹)・『測量全義』とその数学的内容をめぐって(小林龍彦)</p>
<p><b>敦煌類書の研究</b> 福田 俊昭著 A5判 308頁／本体7,000円(税別)／2003.2.20</p>	<p>本書は敦煌出土の類書を中心に整理したものである。一部は敦煌出土の『類林』の訓詁を中心に構成したもの、二部は敦煌類書にみえる輯佚書ならびに逸文集である。一部、二部共に本邦初の試みである。</p>

<p><b>若杉家文書『三家簿讀』の研究</b> 大東文化大学東洋研究所編 B5判 213頁／本体 10,000円(税別) / 2004.3.25</p>	<p>京都府立総合資料館所蔵の「若杉家文書」『三家簿讀』、すなわち『石氏星官簿讀』・『甘氏星官簿讀』・『巫咸星官簿讀』および『黄帝星[官]簿讀』を対象とした研究書である。【原文】・【訓読文】・【参考史料】・【語釈】・【索引】からなり、山下克明の『三家簿讀』の考察を収める。</p>
<p><b>「若杉家文書」中國天文・五行占資料の研究</b> 小林 春樹・山下 克明編 B5判 187頁／本体 7,000円(税別) / 2007.3.31</p>	<p>「若杉家文書『三家簿讀』の研究」の姉妹編。若杉家文書『雜卦法』を影印し、資料篇で原文(翻字)・訓読文・参考史料・注を掲げ、論考篇には「若杉家文書『雜卦法』の考察」(山下克明)、「若杉家文書「雜怪事占方」と『漢書』「五行志」との比較」(小林春樹)を収めるとともに、巻末に語句索引を載せる。</p>
<p><b>『翰林學士集』注釈</b> 福田 俊昭他 A5判 427頁／本体 12,000円(税別) / 2006.3.31</p>	<p>『翰林學士集』は書名も未定である天下の孤本(残巻)で、他書に見えない詩篇を多く含有する貴重な資料である。本書ではそれに訓読、語釈、通釈を施し、所録されている詩篇と現存する詩篇がある場合は校勘を、また余説では関連事項を付した。</p>
<p><b>『延暦僧録』注釈 《品切》</b> 藏中しのぶ著 A5判 371頁／本体 20,000円(税別) / 2008.3.25</p>	<p>『延暦僧録』5巻は、鑑真にしたがって来朝した唐僧・思託の撰になる、わが国最初の邦人を含む集成僧伝である。しかし、『延暦僧録』の完本として伝存するものはなく、宗性撰『日本高僧伝要文抄』巻3をはじめとする諸書に佚文をとどめるのみである。本書は、最も充実したかたちで佚文を採録する重要文化財・東大寺図書館蔵、宗性筆『高僧伝』6種9冊のうち、宗性撰『日本高僧伝要文抄』を底本としてこれを影印に付し、諸書に散在する『延暦僧録』の佚文集成を試み、校本として報告するとともに、若干の注釈を加えたものである。</p>
<p><b>『晉書校補』帝紀(一)</b> 渡邊 義浩・高橋 康浩編 B5判 277頁／本体 5,000円(税別) / 2013.3.10 ISBN978-4-904626-11-5</p>	<p>二十四史の一つに数えられている『晉書』は、唐代の編纂にかかるもので、史料的に偏向が多いと言われている。『晉書校補』は、『晉書』の史料論的研究の基礎を構築するため、『晉書斟注』および「十八家晉書」や『資治通鑑』を利用することにより、校補本の『晉書』を作成したものである。</p>
<p><b>『岡倉天心 伝統と革新』</b> 大東文化大学東洋研究所・岡倉天心研究班代表 田辺 清 編 B5判 130頁／本体 6,000円(税別) / 2014.3.28 ISBN978-4-904626-16-0</p>	<p>本書は2012年4月に発足した「天心研究班」の研究成果を初めて発表するものである。天心を曾祖父に持つ岡倉登志大東大名譽教授の論考を筆頭に最年少の依田徹氏に至る8名の研究者が各自の専門性を生かしながら天心研究の新たな方向を模索しており生誕150年・没後100年を過ぎた天心の実像を、それぞれに明らかにしているといえよう。本書で生じた、さまざまな課題を更に次の段階で考察・展開していくことも既に検討しつつある。</p>
<p><b>『お茶を愉しむ-絵画でたどるヨーロッパ茶文化-』</b> 滝口明子著 A5判 215, 29頁／本体 5,000円(税別) / 2015.3.19 ISBN978-4-904626-19-1</p>	<p>東洋の茶は、近代ヨーロッパの社会と文化に大きな影響を与え、世界史の中で重要な役割を果たして来た。本書は絵画と茶道具を通して17世紀以降の欧米茶文化形成とその展開の過程を明らかにしようとする試みである。オランダ、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ等の茶道具と喫茶図、絵本など100枚を超える図版(カラー多数)を含む。今後の茶文化研究の基盤となる貴重な基礎資料であるとともに、一般読者にも楽しめる内容となっている。</p>

<p><b>西安事変と中国共産党</b>  <b>—西安事変 80 周年</b>  大東文化大学東洋研究所 岡崎 邦彦著 A5 判  317 頁／本体 3,000 円(税別)／2016. 02. 25  ISBN978-4-904626-21-4</p>	<p>本年(2016年)12月、中国では西安事変 80 周年を迎える。筆者は、2006 年から 10 年間の西安事変研究を経て、『西安事変と中国共産党—西安事変 80 周年』を上梓した。これによって事変後 80 年目にして、闇に覆われていた事変の真相をようやく明らかにすることができた。いったい誰が、事変の真相が暴かれることを邪魔していたのか。詳細は本書にてご高覧あれ。</p>
<p><b>インディア領の成立とポルトガル人の定住</b>  <b>—ポルトガルのアジア進出史の再検討—</b>  大東文化大学東洋研究所 齋藤 俊輔著 A5 判  244 頁／本体 3,000 円(税別)／2016. 03. 23  ISBN978-4-904626-20-7</p>	<p>従来、ポルトガルのアジア進出史は、交易をめぐる争いの歴史として描かれることが多かった。本書はそれとは異なり、ポルトガル人そのものに焦点があてられる。中心となるのは、彼らがどのようにアジアにやってきて、そして定住したのかという問題である。本書では、ポルトガル人の定住が基本的にインディア領を通じた現象でありながら、ディアスポリックな性質を持ったことが明らかにされる。</p>
<p><b>岡倉天心—明治国家形成期における「日本美術」</b>  大東文化大学東洋研究所・岡倉天心研究班 代表田辺 清 編  B5 判  77 頁／本体 5,000 円(税別)／2016. 03. 11  ISBN978-4-904626-24-5</p>	<p>本書は 2012 年 4 月に発足した「天心研究所」の研究成果を発表する二冊目のものである。天心を曾祖父に持つ岡倉登志夫大東文化大学名誉教授の論考を筆頭に 6 名の研究者が各自の専門性を生かしながら天心研究の更なる考察の方向を模索している。今回は天心の多彩な才能を明治期の日本美術を中心に分析しているが本書で生じた課題を新たな視点から次の段階で展開していくことも既に検討しはじめている。</p>
<p><b>イラン研究 万華鏡</b>  <b>—文学・政治経済・調査現場の視点から—</b>  大東文化大学東洋研究所 イラン文化圏における伝統と変容研究班 原 隆一、中村 菜穂編 菊 5 判  10, 273 頁／本体 5,000 円(税別)/2016. 12. 23  ISBN978-4-904626-26-9</p>	<p>ここで私たちが「イラン文化圏」と呼んでいるのは、現在のイラン国を中心に、周辺のアフガニスタン、タジキスタン、クルディスタンなどを含む広域文化圏のことをいっている。イラン系民族、ペルシア語系言語、太陽暦の春分を新春(ノウルーズ)として祝う古来の慣習や生活リズムなどに特徴がある大きな一括りを指している。それは、インド文化圏、中央アジア、トルコ文化圏、アラブ文化圏など隣接する周辺の文化圏との歴史的交流のなかで育まれたものである。また、文化は、人間の生活舞台である自然生態環境、生業を基盤とした経済・秘術活動、その上に展開する社会や狭義の文化を含む総体をここでは意味している。本書は、多様な視角、様々なプリズムをとおしてみたイラン文化圏における伝統と変容に関する論考集である。詳細は本書にてご高覧あれ。</p>
<p><b>Social Transformation and Cultural Change in South Asia : From the perspectives of the Socio-Economic Periphery</b>  <b>南アジアにおける社会変動と文化変容</b>  <b>—社会経済的周縁の視点から—</b>  大東文化大学東洋研究所 篠田 隆、井上 貴子、須田 敏彦 共編著 A5 判  18, 264 頁／本体 7,000 円(税別)/2017. 2. 28  ISBN978-4-904626-27-6</p>	<p>本書は現代南アジアの社会変動を周縁の人々(後進階級や女性)の観点から捉え直した学術刊行物である。本書は、大東文化大学の南アジア研究者が 2015 年に開催した国際会議の成果であり、東洋研究所の刊行物である。本書には、国内外の研究者による実態調査に基づく 9 本の独創的な論文と、それらに対する 4 本のコメントが収録されている。Takashi Shinoda, Takako Inoue, and Toshihiko Suda(eds.), 2017. Social Transformation and Cultural Change in South Asia: From the Perspectives of the Socio-Economic Periphery, Tokyo : The Institute of Oriental Studies, Daito Bunka University, A4, xviii, 264p. / ISBN978-4-904626-27-6 /Price¥7,000(+Tax). This book is an academic publication which examined the social change of modern South Asia from the perspectives of peripheral people (backward classes and female). The book is the result of the international conference held by Daito Bunka University's South Asian researchers in 2015 and is the publication at the Institute of Oriental Studies. The book contains nine original papers based on field surveys by Japanese and foreign researchers and four comments on them.</p>

**天心をめぐる人々**

大東文化大学東洋研究所・岡倉天心研究班  
代表田辺 清 編 A4判  
76頁／本体 4,000円(税別)／2020.03.25  
ISBN978-4-904626-39-9

本書は2012年4月に発足した「天心研究班」の研究成果を発表する三冊目のものである。天心を曾祖父に持つ岡倉登志大東大名誉教授の論考を筆頭に5名の研究者が各自の専門性を生かしながら天心研究の更なる考察の方向を模索している。今回は岡倉天心(覚三)の周辺の人々との関わりを中心に分析しているが、本書で生じた課題を新たな視点や方法論によって、次の段階で展開し、その成果等を公表していくことも既に検討しはじめている。

**中国古代史研究 一天文・暦学を中心として一**

大東文化大学東洋研究所編 「唐・李鳳の『天文要録』の研究(訳注作業を中心して)」研究班  
代表小林 春樹著 A5判  
163頁／本体 3,000円(税別)／2022.02.25  
ISBN978-4-904626-45-0

本書は、『天文・暦学篇』に収めた中国古代の「天文占」や「暦学・暦法」に関する論考を中心とした論文集であり、それら諸論考の主要な関心は、第一に、中国古代の天文、暦学・暦法が「神秘主義的性格」と「合理主義性格」という、一見すると対照的な性格を有している事実、第二には、そのような天文、暦学・暦法が所謂「正統論」において果たした役割の実態とその変遷、の二点に集約される。したがって本論文集は、上記のような限られた観点からなされた、中国古代の天文、暦学・暦法に関する「管見」というべきで性格を有するものであるが、日本における従来の中国古代の天文、暦学・暦法史研究が戦前の新城新蔵以来、戦後の藪内清らにいたるまで、主として理科系、とくに天文学の専門家によって行われてきたという事実を鑑みると、史学を専門とする本書の著者による研究が、いわば当該分野の研究の問題式と方法論にいささか形とも新機軸をもたらすことができるならば幸甚である。

**『虞初新志』訳注 卷一～卷三**

大東文化大学東洋研究所「虞初新志」研究班  
代表小塚 由博 編 A5判  
313頁／本体 4,000円(税別)／2022.02.21  
ISBN978-4-904626-43-6

『虞初新志』は、清初の張潮編の文言小説集で、当時の文人たちの筆記・小説が収められおり、文人たちによく読まれた。日本にも伝わり、和刻本が刊行されている。その内容は武芸、音楽、演劇、仙術、呪術、工芸、技芸、話芸、妓女等実に多種多様で、当時の文人たちの興味関心の広さを表している。本書はその『虞初新志』に現代語訳・訓読・語釈・余説を施したものであり、利用者の便を考えて代表的な語句について索引も掲載している。

**『虞初新志』訳注 卷四～卷六**

大東文化大学東洋研究所「虞初新志」研究班  
代表小塚 由博 編 A5判  
366頁／本体 4,000円(税別)／2025.02.21  
ISBN978-4-904626-54-2

第一冊目となる本書では、時代背景や作者・作品等に関する解説を加えた上で、序文・凡例を含む卷一～卷三の現代語訳・訓読・語釈・余説・索引を収めている。掲載されている作品は魏禧「大鉄椎伝」、林嗣環「秋声詩自序」、周亮工「盛此公伝」、吳偉業「柳敬亭伝」、方亨咸「武風子伝」、尤侗「瑤宮花史小伝」、侯方域「馬伶伝」、張明弼「冒姬董小宛伝」等、各巻6話・計18話である(底本は和刻本を用いる)。

## 松方正義関係文書 全 20 卷 《絶版》

藤村 通／大久保達正 監修 A5 判

松方正義は明治・大正期にあつて蔵相、首相、内大臣などを歴任し、元勳として日本の近代史上に大きな役割を果たした。その松方に関する主要な資料は現在三カ所に分散して所蔵されている。(1) 国立国会図書館憲政資料室寄託「松方正義文書」(書翰・伝記的資料など)、(2) 大東文化大学東洋研究所蔵「松方家萬歳閣資料」(「侯爵松方正義卿実記」・千本松農場資料など)、(3) 大蔵省保存文書室蔵「松方家文書」(大蔵省在官中の財政・金融政策関連資料など)がそれである。本関係文書では、(1)、(2)を完全に収録し、(3)については松方宛の意見書・建議書類を中心に一部を収録した。

- 第1巻 『侯爵松方正義卿實記』(1)** 486頁／本体 13,000円(税別)／1979.11.30  
松方氏の由来、幕末騒擾時代、明治維新創業時代(明治元年～12年)
- 第2巻 『侯爵松方正義卿實記』(2)** 495頁／本体 13,000円(税別)／1981.3.30  
庶政整理時代(明治13年～18年)
- 第3巻 『侯爵松方正義卿實記』(3)** 663頁／本体 13,000円(税別)／1981.12.25  
立憲政体確立時代(明治19年～25年)
- 第4巻 『侯爵松方正義卿實記』(4)** 574頁／本体 13,000円(税別)／1982.12.25  
国威宣揚時代(明治26年～45年)
- 第5巻 『侯爵松方正義卿實記』(5)** 697頁／本体 13,000円(税別)／1983.12.25  
大正時代
- 第6巻 書翰篇(1)** 554頁／本体 13,000円(税別)／1985.3.30  
書翰(67人、608通)
- 第7巻 書翰篇(2)** 672頁／本体 13,000円(税別)／1986.3.31  
書翰(66人、612通)
- 第8巻 書翰篇(3)** 565頁／本体 11,000円(税別)／1987.3.31  
書翰(132人、628通)
- 第9巻 書翰篇(4)** 661頁／本体 13,000円(税別)／1988.3.31  
書翰(115人、652通他)
- 第10巻 伝記資料篇(1)** 461頁／本体 13,000円(税別)／1989.3.31  
伝記資料、日記類、履歴書及付属品
- 第11巻 伝記資料篇(2)** 470頁／本体 11,000円(税別)／1990.3.31  
天津事件関係資料、明治35年欧米外遊関係資料、意見書他
- 第12巻 伝記資料篇(3)** 515頁／本体 16,000円(税別)／1991.2.28  
島津家資料、古今人の事歴調他
- 第13巻 伝記資料篇(4)** 580頁／本体 19,000円(税別)／1992.3.25  
皇室関係・十五銀行関係資料他
- 第14巻 松方家萬歳閣資料(1)** 590頁／本体 25,000円(税別)／1993.3.25  
千本松農場関係資料83件
- 第15巻 松方家萬歳閣資料(2)** 511頁／本体 16,000円(税別)／1994.3.25  
財政経済・国際関係資料、書翰資料、松方正義国葬関係新聞記事
- 第16巻 松方家萬歳閣資料(3) 谷家所蔵資料** 589頁／本体 19,000円(税別)／1995.2.25  
松方公米寿祝賀会記録、十五銀行関係資料(大正期)他
- 第17巻 大蔵省文庫『松方家文書』(1)** 495頁／本体 15,000円(税別)／1995.12.20  
意見及建議85件
- 第18巻 大蔵省文庫『松方家文書』(2)** 548頁／本体 16,000円(税別)／1996.12.10  
意見及建議44件、日田県関係文書
- 別巻 総目次・補遺・索引** 422頁／本体 12,000円(税別)／1997.12.10
- 補巻 松方伯財政論策集** 727頁／本体 20,000円(税別)／2001.10.20

## 昭和社會經濟史料集成 全 38 卷 《絶版》

土井 章監修／大久保達正・永田元也・兵頭徹他編 A5判

## 第 1 期 海軍省資料

海軍省資料は、海軍省調査関係部署により収集された昭和9年から20年の間の、戦前・戦中におけるさまざまな重要政策決定過程に関する資料を収録しており、信憑性も高く昭和史を研究するにあたっての貴重な第一級史料である。

第 1 卷	海軍省資料 (1)	昭和 9・10 年	484 頁／本体 9,800 円(税別) / 1978. 11. 20
第 2 卷	海軍省資料 (2)	昭和 11 年	653 頁／本体 9,800 円(税別) / 1980. 3. 20
第 3 卷	海軍省資料 (3)	昭和 12 年 1～7 月	568 頁／本体 9,800 円(税別) / 1981. 3. 30
第 4 卷	海軍省資料 (4)	昭和 12 年 8～12 月	463 頁／本体 9,800 円(税別) / 1982. 1. 30
第 5 卷	海軍省資料 (5)	昭和 13 年 1～5 月	356 頁／本体 12,000 円(税別) / 1983. 2. 28
第 6 卷	海軍省資料 (6)	昭和 13 年 6～12 月	435 頁／本体 12,000 円(税別) / 1983. 3. 10
第 7 卷	海軍省資料 (7)	昭和 14 年 1～6 月	778 頁／本体 15,000 円(税別) / 1984. 3. 24
第 8 卷	海軍省資料 (8)	昭和 14 年 7～12 月	877 頁／本体 18,000 円(税別) / 1984. 8. 31
第 9 卷	海軍省資料 (9)	昭和 15 年 1～5 月	507 頁／本体 13,000 円(税別) / 1985. 3. 25
第 10 卷	海軍省資料 (10)	昭和 15 年 6～9 月	729 頁／本体 18,000 円(税別) / 1985. 8. 31
第 11 卷	海軍省資料 (11)	昭和 15 年 9～12 月	826 頁／本体 21,000 円(税別) / 1986. 8. 30
第 12 卷	海軍省資料 (12)	昭和 16 年 1～4 月	672 頁／本体 19,000 円(税別) / 1987. 8. 31
第 13 卷	海軍省資料 (13)	昭和 16 年 5～7 月	684 頁／本体 20,000 円(税別) / 1988. 8. 31
第 14 卷	海軍省資料 (14)	昭和 16 年 8～12 月	774 頁／本体 21,000 円(税別) / 1989. 9. 20
第 15 卷	海軍省資料 (15)	昭和 17 年 1～3 月	685 頁／本体 24,000 円(税別) / 1990. 9. 20
第 16 卷	海軍省資料 (16)	昭和 17 年 4～8 月	489 頁／本体 16,000 円(税別) / 1991. 9. 20
第 17 卷	海軍省資料 (17)	昭和 17 年 9～12 月	740 頁／本体 23,000 円(税別) / 1992. 9. 20
第 18 卷	海軍省資料 (18)	昭和 18 年 1～3 月	533 頁／本体 27,000 円(税別) / 1993. 9. 20
第 19 卷	海軍省資料 (19)	昭和 18 年 4, 5 月	552 頁／本体 17,000 円(税別) / 1994. 9. 20
第 20 卷	海軍省資料 (20)	昭和 18 年 6～8 月	608 頁／本体 20,000 円(税別) / 1995. 3. 31
第 21 卷	海軍省資料 (21)	昭和 18 年 9, 10 月	614 頁／本体 16,700 円(税別) / 1995. 9. 20
第 22 卷	海軍省資料 (22)	昭和 18 年 11, 12 月	624 頁／本体 21,000 円(税別) / 1996. 9. 30
第 23 卷	海軍省資料 (23)	昭和 19 年 1～3 月	668 頁／本体 20,000 円(税別) / 1997. 9. 20
第 24 卷	海軍省資料 (24)	昭和 19 年 4, 5 月	667 頁／本体 20,000 円(税別) / 1998. 10. 30
第 25 卷	海軍省資料 (25)	昭和 19 年 6, 7 月	675 頁／本体 21,000 円(税別) / 1999. 9. 20
第 26 卷	海軍省資料 (26)	昭和 19 年 8, 9 月	618 頁／本体 18,000 円(税別) / 2000. 9. 20
第 27 卷	海軍省資料 (27)	昭和 19 年 10～12 月	622 頁／本体 19,000 円(税別) / 2001. 9. 20
第 28 卷	海軍省資料 (28)	昭和 20 年 1～5 月	553 頁／本体 16,000 円(税別) / 2002. 8. 31
第 29 卷	海軍省資料 (29)	昭和 20 年 6～8 月	514 頁／本体 13,000 円(税別) / 2003. 8. 20
第 30 卷	海軍省資料別巻	総目次・総索引	521 頁／本体 11,000 円(税別) / 2004. 10. 31

## 第 2 期 昭和研究会資料

昭和研究会は、後藤隆之助(1888～1984)主宰のもと昭和8年に発足した民間国策研究機関で、近衛文麿(1891～1945)のプレーン・トラスト集団である。政治、外交、経済、社会、教育、文化等の分野に当時一流の有識者が数多くの政策研究案を立案した。昭和10年7月より昭和18年までの諸資料を収録。

第 31 卷	昭和研究会資料 (1)	昭和 10 年 7 月～12 年 8 月	517 頁／本体 13,000 円(税別) / 2004. 8. 31
第 32 卷	昭和研究会資料 (2)	昭和 12 年 9 月～13 年 6 月	505 頁／本体 10,000 円(税別) / 2005. 8. 31
第 33 卷	昭和研究会資料 (3)	昭和 13 年 7 月～14 年 2 月	474 頁／本体 10,000 円(税別) / 2006. 8. 31
第 34 卷	昭和研究会資料 (4)	昭和 14 年 3～12 月	519 頁／本体 7,000 円(税別) / 2007. 8. 31
第 35 卷	昭和研究会資料 (5)	昭和 15 年 1～5 月	482 頁／本体 7,000 円(税別) / 2008. 8. 31
第 36 卷	昭和研究会資料 (6)	昭和 15 年 6～12 月	514 頁／本体 7,000 円(税別) / 2009. 8. 31 ISBN978-4-904626-01-6
第 37 卷	昭和研究会資料 (7)	昭和 16 年 1 月～19 年 9 月	472 頁／本体 7,000 円(税別) / 2010. 8. 31 ISBN978-4-904626-04-7
第 38 卷	昭和研究会資料別巻	総目次・総索引	551 頁／本体 9,000 円(税別) / 2011. 8. 31 ISBN978-4-904626-08-5

## 藝文類聚 訓讀付索引

大東文化大学東洋研究所編 B5判

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。その『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考慮して重要語彙索引を掲載したものである。

巻1	天部上	144頁／	本体 15,000円(税別)	／	1990.3.23	《品切》
巻2	天部下	108頁／	本体 12,000円(税別)	／	1991.3.23	
巻3	歳時部上	101頁／	本体 12,000円(税別)	／	1992.3.23	
巻4	歳時部中	148頁／	本体 19,000円(税別)	／	1993.9.23	
巻5	歳時部下	82頁／	本体 9,500円(税別)	／	1994.8.25	
巻6	地部・州部・郡部	115頁／	本体 12,000円(税別)	／	1995.11.23	
巻7	山部上	111頁／	本体 9,000円(税別)	／	1997.3.20	
巻8	山部下・水部上	124頁／	本体 12,000円(税別)	／	1998.3.25	
巻9	水部下	116頁／	本体 12,000円(税別)	／	1999.3.25	
巻10	符命部	78頁／	本体 9,000円(税別)	／	2000.3.25	
巻11	帝王部一	130頁／	本体 11,000円(税別)	／	2001.3.25	
巻12	帝王部二	140頁／	本体 10,000円(税別)	／	2002.2.15	
巻13	帝王部三	127頁／	本体 7,000円(税別)	／	2003.2.5	
巻14	帝王部四	112頁／	本体 6,000円(税別)	／	2004.2.25	
巻15	后妃部	93頁／	本体 4,000円(税別)	／	2005.2.25	
巻16	儲宮部	118頁／	本体 7,000円(税別)	／	2006.3.25	
⋮						
巻80	火部	109頁／	本体 5,000円(税別)	／	2007.3.25	
巻81	薬香草部上	157頁／	本体 5,000円(税別)	／	2008.3.25	
巻82	草部下	143頁／	本体 6,000円(税別)	／	2009.3.25	
巻83	寶玉部上	88頁／	本体 5,000円(税別)	／	2010.3.25	ISBN978-4-904626-02-3
巻84	寶玉部下	93頁／	本体 4,000円(税別)	／	2011.2.10	ISBN978-4-904626-05-4
巻85	百穀部・布帛部	130頁／	本体 5,000円(税別)	／	2012.3.21	ISBN978-4-904626-09-2
巻86	菓部上	136頁／	本体 5,000円(税別)	／	2013.3.19	ISBN978-4-904626-12-2
巻87	菓部下	145頁／	本体 6,000円(税別)	／	2014.3.31	ISBN978-4-904626-14-6
巻88	木部上	116頁／	本体 6,000円(税別)	／	2015.3.25	ISBN978-4-904626-17-7
巻89	木部下	119頁／	本体 4,000円(税別)	／	2016.2.25	ISBN978-4-904626-22-1
巻45	職官部 1	94頁／	本体 3,000円(税別)	／	2017.1.30	ISBN978-4-904626-29-0
巻46	職官部 2	88頁／	本体 3,000円(税別)	／	2018.2.25	ISBN978-4-904626-32-0
巻47	職官部 3	80頁／	本体 3,000円(税別)	／	2019.2.25	ISBN978-4-904626-34-4
巻48	職官部 4	126頁／	本体 4,000円(税別)	／	2020.2.25	ISBN978-4-904626-38-2
巻49	職官部 5	75頁／	本体 3,000円(税別)	／	2021.2.25	ISBN978-4-904626-41-2
巻50	職官部 6	99頁／	本体 3,000円(税別)	／	2022.2.25	ISBN978-4-904626-44-3
巻51	封爵部	112頁／	本体 3,000円(税別)	／	2023.2.25	ISBN978-4-904626-47-4
巻52	治政部上	85頁／	本体 2,000円(税別)	／	2024.2.26	ISBN978-4-904626-51-1
巻53	治政部下	73頁／	本体 1,000円(税別)	／	2025.2.25	ISBN978-4-904626-52-8
巻54	刑法部(刑法)	76頁／	本体 2,000円(税別)	／	2026.2.25	ISBN978-4-904626-56-6

以下続刊

## 『茶譜』注釈 全18巻

大東文化大学東洋研究所編

藏中 しのぶ・相田 満・安保 博史・オレグ プリミアニー・菅野 友巳・藏田 明子・笹生 美貴子・佐藤 信一・

高木 ゆみこ・布村 浩一・福田 俊昭・フレデリック ジラルール・松本 公一・三田 明弘・矢ヶ崎 善太郎・渡辺 信和共著

(各巻異同有り) B5判

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661~1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

本書は、『茶譜』最善本とみなしうる国会図書館本を底本とし、伝存する四種の写本(国会図書館本・静嘉堂文庫本・内閣文庫本・岩瀬文庫本)すべてを校合して【校異】を示し、校訂をくわえた【本文】を掲げ、【訓み下し文】【大意】を加え、さらに若干の【語釈】と【考察】を施したものである。

**巻1** 230頁／本体 8,000円(税別)／2009.3.25 ISBN978-4-904626-00-9

「茶道発起茶園之事」より「路地松葉小石塵穴之事」まで。他、論文3件『茶譜』の出典体系—千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流—(藏中)、「近世語資料としての『茶譜』について」(安保)、「筆を走らせて孟諫議の新茶を奇するに謝す 盧仝」(福田)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻2** 204頁／本体 7,000円(税別)／2010.3.25 ISBN978-4-904626-03-0

「手水鉢之事」より「砂利壇之事」まで。他、論文6件「利休の顔—観相的分析の試み—」(相田)、『茶譜』におけるサ変動詞の漢字表記について—「仕テ」を中心として—(安保)、『古事類苑』所引『茶譜』本文について(金井悦子)、『茶譜』にみえる大文字屋宗味(松本)、「李白の茶詩」(福田)、『茶譜』西尾市立図書館岩瀬文庫本の巻序について(金井)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻3** 186頁／本体 7,000円(税別)／2011.3.25 ISBN978-4-904626-06-1

「路地掃除水打事」より「勝手見入之事」まで。他、論文4件「嵯峨朝の「茶」字所録詩の一考察」(福田)、「利休の顔(続俗相の利休—『秀雅百人一首』に収載される異形の利休像の観相的分析—」(相田)、「芭蕉と「侘人」—「こがらし」を軸として—」(安保)、『茶道筌蹄』と稲垣休叟(谷佳憲)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻4** 296頁／本体 8,000円(税別)／2012.3.21 ISBN978-4-904626-10-8

「数奇屋床之事」より「墨蹟写」まで。他、論文2件『茶譜』における(風)の表象—数寄屋に吹く風について—(谷佳憲)、「昔見し」藤原公実詠と『茶譜』—中世廢園詠と小町零落伝説の融合—(安保・上田安津子)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻5** 354頁／本体 9,000円(税別)／2013.3.21 ISBN978-4-904626-13-9

「池田炭」より「炉中灰之事」まで。他、論文3件「菅原道真と茶(一)—詩を中心に—」(佐藤)、「炭手前茶道具の意匠—色・寸・物数寄・眼力—」(谷佳憲)、「岡倉覚三は『茶の本』を何故英語で書いたのか—「民族誌の三者構造」による分析—」(鈴村裕輔)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻6** 298頁／本体 11,000円(税別)／2014.3.21 ISBN978-4-904626-15-3

「炭置継事」より「炭所望之事」まで。他、論文1件「座敷と炭道具—『茶譜』巻六における座敷図—」(木村夏織・高木悠美子)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻7** 360頁／本体 13,000円(税別)／2015.3.21 ISBN978-4-904626-18-4

「会席膳部之事」より「手水間茶之事」まで。他、論文3件『茶譜』巻七の錯簡と本文の復元(相澤孝成)、『茶譜』巻七「菓子事」と『利休百会記』—『茶譜』における茶会記の引用について—(高暁劫)、『茶譜』巻四「魚籃観音」攷—「一山一壺 絵讃ノ魚籃観音墨絵」—(藏中)・目録本文対照表(金井悦子)・関係語彙解説(矢ヶ崎)を付す。

**巻8** 272頁／本体 12,000円(税別)／2016.3.21 ISBN978-4-904626-25-2

「茶湯行作法意得之事」より「客人諸具啓事」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成改訂)を付す。

**巻9** 298頁／本体 12,000円(税別)／2017.3.21 ISBN978-4-904626-28-3

「点茶前座中置合事」より「棗類異名并図」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻10** 237頁／本体 11,000円(税別)／2018.2.26 ISBN978-4-904626-31-3

「点茶ニ出ル意得事」より「点茶之時面桶閉目置様事」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻1 1 (上)** 200頁／本体 11,000円(税別) ／ 2019. 2. 26 ISBN978-4-904626-36-8

「点茶之時蓋置之事」より「同蓋ノ上茶杓乗置事」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻1 1 (下)** 262頁／本体 10,000円(税別) ／ 2020. 3. 6 ISBN978-4-904626-40-5

「大海耳付油桶茶入取扱事」より「茶巾摺様之事」まで。他、論文1件『茶譜』巻十一の錯簡と本文の復元(藏中・プリミアニー)・目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻1 2** 245頁／本体 9,000円(税別) ／ 2021. 3. 5 ISBN978-4-904626-42-9

「茶救後茶杓持様事」より「客人茶可仕舞挨拶之事」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻1 3** 186頁／本体 9,000円(税別) ／ 2023. 2. 25 ISBN978-4-904626-49-8

「晨茶湯事」より「伽羅手入事」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

**巻1 4** 246頁／本体 10,000円(税別) ／ 2025. 2. 25 ISBN978-4-904626-53-5

「利休座敷寸法事」より「遠州流数奇屋寸法時」まで。他、目録本文対照表(相澤孝成)を付す。

以下続刊

## 『天文要録』の考察

(一) 小林 春樹・山下 克明編 B5判

(二・三・四) 大東文化大学東洋研究所編 B5判

唐の李鳳が撰した『天文要録』全50巻は、緯書や種々の天文占書から多くの記事を採録している貴重書であるが、中国ではすでに唐代においてその伝本は途絶え、新・旧の『唐書』以下の「芸文志」や目録類にはその書名さえ著録されていない。

一方同書は、日本にはつとに伝来して天文を専門とする学生(天文生)の必読書に指定されるとともに、『三代実録』の貞観18年(876)の条など、多くの史料にその書名を見出すことができる。さらに江戸時代の貞享3年(1686)には前田家第五代の当主である綱紀の命によって鈔本28冊が作られ、そのうちの26冊が現在も前田尊経閣文庫に所蔵されている。

本書では『天文要録』(尊経閣文庫本)の原文を翻字したうえで、訓読・現代語訳を施すとともに、語釈・参考資料を付した。

(一) 107頁／本体 3,000円(税別)／2011.3.25 ISBN978-4-904626-07-8

現存する第一冊に当たる「目録序第一」(李鳳の奏上文・序文・目録)の翻字、訓読文、現代語訳、語釈・参考資料を載す(序文には多くの天文占辞と「図採例書名目録」を含む)。他、索引と論考『『天文要録』の考察』(山下克明)を付す。

(二) 99頁／本体 4,000円(税別)／2016.2.25 ISBN978-4-904626-23-8

現存する第二冊に当たる「日占第四」の前半部分の翻字、訓読文、現代語訳、語釈・参考資料を載す。他、余説(「定気法」「斗建」「啓蟄・雨水」「薄蝕」「干支分野説」と数件の図表・索引を付す。

(三) 103頁／本体 3,000円(税別)／2019.2.25 ISBN978-4-904626-35-1

現存する第二冊に当たる「日占第四」の後半部分の翻字、訓読文、現代語訳、語釈・参考資料を載す。他、余説(「周礼の十輝」「李淳風の気象占」「虹蜺」と数件の図表・索引を付す。

(四) 91頁／本体 4,000円(税別)／2023.2.25 ISBN978-4-904626-48-1

現存する第三冊に当たる「月占第五」の前半部分の翻字、訓読文、現代語訳、語釈・参考資料を載す。他、余説「二十四節気的名称と順序」「天文占辞中の八卦が表す事物」「〇タ〇運」と数件の図表・索引を付す。

(五) 93頁／本体 2,000円(税別)／2026.2.25 ISBN978-4-904626-55-9

現存する第三冊に当たる「月占第五」の前半部分の翻字、訓読文、現代語訳、語釈・参考資料を載す(なお本巻は「天裂・天鳴」占を含む)。他、余説「月と昴と胡王の関係」「月の南中」「月のウサギとヒキガエル」と数件の図表・索引を付す。

以下続刊

## 大野盛雄 フィールドワークの軌跡 全5巻

経済地理学、文化人類学的視点からイラン、アフガニスタン、それにトルコなど中東地域の農村調査によって人びとの自然、歴史、文化などを解き明かすシリーズ

### I —50年の研究成果と背景—

大東文化大学東洋研究所 イラン文化圏における伝統と変容 研究班 原 隆一、南里浩子 編 B5判

197頁／本体 10,000円(税別) / 2017.3.15 ISBN978-4-904626-30-6

第1巻では、大野氏が1950年代前半の日本漁村調査からスタートし、1950年代後半の南米日系移民開拓村調査、1960年代から亡くなる2001年まで調査拠点を西アジア地域へと大きく移し研究に専念した50年間の研究軌跡を追う。

### II —1960年代～1970年代のイランとアフガニスタン農村調査から—

大東文化大学東洋研究所 イラン文化圏における伝統と変容 研究班 原 隆一、南里浩子 編 B5判

223頁／本体 7,000円(税別) / 2018.3.20 ISBN978-4-904626-33-7

第2巻では、1960年代前半に大野氏が単独でおこなったイランのむらの調査、1970年からはじまる科研費によるアフガニスタンのむらと1972年のイラン南部ボレノウむら、1974年のイラン南部ヘイラーバードむら(第3次調査)の20年間の調査研究に焦点をあてて、その軌跡を追う。

### III —イラン革命のフィールドワーク 1975～1987年—

大東文化大学東洋研究所 西アジア地域における伝統と変容 研究班 原 隆一、南里浩子 編 B5判

237頁／本体 7,000円(税別) / 2022.2.25 ISBN978-4-904626-46-7

第3巻は、大野氏が現地で遭遇した歴史的な大事件、「イラン・イスラム革命」の体験の記録であり、革命のど真ん中であって、まさに「イラン革命をフィールドワークする」大野氏の記録文書である。

### IV —乾燥地域の「米の道」 稲作から米の料理まで 1988～1993年—

大東文化大学東洋研究所 西アジア地域における伝統と変容 研究班 原 隆一、南里浩子 編 B5判

255頁／本体 8,000円(税別) / 2020.2.25 ISBN978-4-904626-37-5

第4巻は、1988年から1993年まで、西アジア、地中海、西アフリカ、中央アジアなどユーラシア乾燥・半乾燥地域の各地(4地域、14カ国)の「米の道」を訪ねた現地踏査記録である。

### V —トルコ・アナトリア高原の地方町カマン日誌 1992～2000年—

大東文化大学東洋研究所 西アジア地域における社会と文化の伝統・交流・変容—イラン、アラブ・トルコ文化圏

の越境—研究班 原 隆一、南里浩子 編 B5判 251頁／本体 5,000円(税別) / 2024.2.26 ISBN978-4-904626-50-4

第5巻は、副題に「トルコ・アナトリア高原の地方町カマン日誌—1992～2000年」とあるように、その舞台となったのがトルコの地方町カマンである。この町に住みこみ、毎週のようにひらかれる野菜定期市の観察や商店街の住民たちとの交流を通して、人びとの生活やその行動、そして、宗教や政治など地方から中央の動きを見つめる様子が詳しく記録されている。

## 【品切れ書】

校註 唐詩精華 猪口 篤志著 1966. 5. 15	藝文類聚 訓讀付索引 巻1 天部上 大東文化大学東洋研究所編 1990. 3. 23
仁の研究 下斗米 晟著 1966. 10. 25	現代中国革命重要資料集 第三巻 文化大革命とその批判 土井 章監修 1984. 3. 31
現代中国政治経済論 土井 章著 1967. 9. 1	近世社会経済史料集成 第一巻 飢饉考 (上) 高橋 梵仙編 1969. 1. 30
日本地方史誌目録・索引 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 2</span> 高橋 梵仙編 1969. 1. 30	近世社会経済史料集成 第二巻 飢饉考 (下) 高橋 梵仙編 1969. 1. 30
喪服總説 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 6</span> 影山 誠一著 1969. 3. 25	敦煌資料と日本文学 (一) 敦煌本 破魔變・四獣因縁 川口 久雄編 1983. 8. 30
ケインズ派経済学 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 4</span> 古屋 美貞著 1969. 4. 1	敦煌資料と日本文学 (二) 敦煌本 敦煌壁画繪解き銘文集 川口 久雄編 1983. 8. 30
ワーズワス論考 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所叢書 7</span> 武井 亮吉著 1969. 7. 15	『延暦僧録』注釈 藏中しのぶ著 2008. 3. 25
夏目漱石の詩 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 6</span> 中村 宏著 1970. 12. 15	中国社会主义經濟の特質 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 11</span> 土井 章著 1973. 9. 1
現代日本語要説 佐伯 梅友監修 1972. 4. 15	仏教歌謡集成 武石 彰夫編著 1976. 1. 15
訳注 清代学術概論 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 10</span> 山田 勝美著 1973. 1. 10	《茅盾短編小説集》語彙索引 大東文化大学東洋研究所・五四文学言語研究班編 1988. 3. 31
唐代小説選註 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東洋研究所襍刊 8</span> 内山 知也編 1973. 3. 25	

## 刊行図書取扱店

■汲古書院  
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4F  
TEL (03) 3265-9764  
E-mail : [kyuko@fancy.ocn.ne.jp](mailto:kyuko@fancy.ocn.ne.jp)

■東方書店業務センター  
〒175-0082 東京都板橋区高島平 1-10-2  
TEL (03) 3937-0300  
E-mail : [tokyo@toho-shoten.co.jp](mailto:tokyo@toho-shoten.co.jp)

■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)  
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560  
TEL (0493) 34-4430  
E-mail : [info-daigakuten@sinmeido.co.jp](mailto:info-daigakuten@sinmeido.co.jp)